

令和4年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立三ツ城小学校	校長	向井 秀則	生徒指導主事	山村 聡一郎
-----	-------------	----	-------	--------	--------

取組事例名	『児童を結び付ける委員会活動』
-------	-----------------

取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協働性」	3	「主体性」	2	「貢献力」	1

取組のねらい

委員会の活動を通して、児童同士の結びつきを作る。また、それぞれの委員会の特色に合わせた活動を考える中で、高学年としての自覚と他人に尽くすことへの意欲を高める。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『委員会が中心となって関わり合う機会をつくる』
----------	------------------------------------

<p>①生活委員によるあいさつ運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの習慣が身につくように、年間を通したあいさつ運動を月・水・金に行ったり、長期休業明けには、よいあいさつができる児童にシールを配ったりするなど、重点的な取組を行った。 <p>②放送委員による外国籍児童の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍児童とのつながりをつくるため、あいさつの生活目標と関連付け、昼の放送を活用して、様々な言語のあいさつの言葉を紹介した。 <p>③児童会によるいじめゼロ行動「笑顔を運ぶ雲」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめをなくし、全校児童が元気に過ごせるようにするために、思いやりをもって行動したことや友達にかけた優しい言葉を集め、掲示した。 <p>④環境委員による人権の花と種配り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権意識を高めるために、全校児童に活動の趣旨を伝えたり、育てた花の種を配ったりした。 <p>⑤体育委員による全校運動遊び「逃走中」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学年との交流を深めるために、体育委員が企画した運動朝会を教員も一緒になって行った。 	<p>①継続的な活動を行うことで、生活委員と全校児童との結びつきを強めるようにした。また、重点的な取組を行い、視覚的な評価を行うことで、児童の意欲を引き出すようにした。</p> <p>②実際に外国籍の児童に放送をしてもらい、クイズ形式にすることで、全校児童が楽しみながら、外国籍児童や外国語に親しめるようにした。</p> <p>③いじめのない学校に向け、前向きな気持ちになれるよう、全校児童から温かい言葉を集め、全校児童が気持ちよく学校生活を送れるように工夫した。</p> <p>④自分たちがしてきたことが学校中に広がるように、種と一緒に手紙を配った。</p> <p>⑤他学年と同じ運動遊びを通して楽しい時間が過ごせるよう、教員をハンターに加えたり、ハンターに捕まった児童が復活できる機会をつくったりした。</p>
--	---

取組の成果と課題

「委員会での自分の仕事は、みんなの役に立っている」と肯定的に答える5・6年生児童は、前期後期ともに88%であった。

◎各委員会が、それぞれの活動の特色に合わせ、主体的に児童が関わる活動を企画・実施することで、貢献する意欲を高いまま保つことができた。

△委員会の活動内容によっては、児童同士の結びつきを生むような取組が難しい場合もあった。また、低中学年から高学年へ感謝を伝える機会を設定したり、日ごろの活動の様子を発信したりすることで、高学年の自己肯定感を高め、貢献力の向上を図ることができたと考える。